

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	14-043	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Maternal alcohol intake prior to and during pregnancy and risk of adverse birth outcomes:evidence from a British cohort. 妊娠前と妊娠中の母親のアルコール摂取と骨盤位のリスク：イギリスのコホート研究の結果より		
<b>執筆者</b>		
Nykjaer C, Alwan NA, Greenwood DC, Simpson NA, Hay AW, White KL, Cade JE.		
<b>掲載誌</b>		
J Epidemiol Community Health. 2014 Jun; 68(6):542-9. doi: 10.1136/jech-2013-202934.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
妊娠、母親、アルコール摂取、コホート研究		24616351
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
<p>妊娠時の少量の飲酒と出産時のアウトカムとの間の関係は矛盾した結果が報告されている。この研究の目的は、妊娠前と妊娠中の飲酒と出生体重、在胎月齢との関係を調査することである。さらに妊娠中のどの時期の飲酒の暴露の影響が強いかを調査することである。</p>		
<b>方法：</b>		
<p>対象者はイギリスのリードで 18～45 歳の 1,303 人の妊婦である。妊娠前と妊娠前中後期のそれぞれの飲酒量を質問紙で調査した。飲酒量は、週 2 単位以下、週 2 単位以上、対照群として非飲酒とした。唾液による喫煙のバイオマーカーの交絡要因を調整しても出生時の体重・早産と関連する因子としてあげられた。</p>		
<b>結果：</b>		
<p>イギリス厚生省のガイドラインにある週 2 単位以下の飲酒を妊娠前はおよそ 2/3 の女性が、妊娠前期には半数以上の女性がしていた。出産時のアウトカムとの関連は、非飲酒群と比較すると妊娠前、妊娠前中期の週 2 単位以上の飲酒群で強い関連がみられた。妊娠前期に飲酒のガイドラインを守っている女性でさえ、たばこなどの交絡因子を調整しても低体重児の出産の有意なリスクであった (<math>P&lt;0.05</math>)。</p>		
<b>結論：</b>		
<p>妊娠の各時期におけるアルコールの胎児への影響が最も高いのは妊娠前期であった。また、妊娠前期においてイギリス厚生省の飲酒ガイドラインを守った女性であっても骨盤位のリスクは高まっていた。この結果から妊娠を考えている時点から飲酒を控えるべきである。</p>		